

## 子育て支援・少子化対策に関するアンケート調査結果

### < 目 次 >

第1章 調査の概要.....	2
1. 調査の目的.....	2
2. 調査設計.....	2
第2章 調査結果.....	3
1. あなた自身のことについて.....	3
2. 結婚やお子さんについて.....	5
3. 子育てについて.....	9
4. 子育て支援・少子化対策について.....	13
5. 出雲いきいきこどもハンドブックについて.....	15
6. 自由意見の整理.....	16

平成28年（2016）3月

出 雲 市

# 第1章 調査の概要

## 1. 調査の目的

本市では、子ども・子育て支援法に基づく「いきいきこどもプラン～出雲市子ども・子育て支援事業計画～」を平成27年3月に策定し、子ども・子育て支援に取り組んでいます。

「いきいきこどもプラン」の概要と市の子育て支援の取組みをまとめたハンドブックの配布にあわせ、今後の子ども・子育て支援を進めていく上での参考とするために、アンケート調査を実施しました。

## 2. 調査設計

### (1) 調査票配布先

- 認可保育所、幼稚園、認定こども園、認定保育所及び放課後児童クラブ利用児童の保護者
- 病児・病後児保育施設、ファミリー・サポート・センター及び子育て支援センター利用者
- 市役所窓口及び市ホームページ（一般市民が調査票回答可能）

### (2) 調査票配布部数

- 上記配布先へ約16,000部を配布（平成27年6月からの配布）

### (3) 調査票回収数

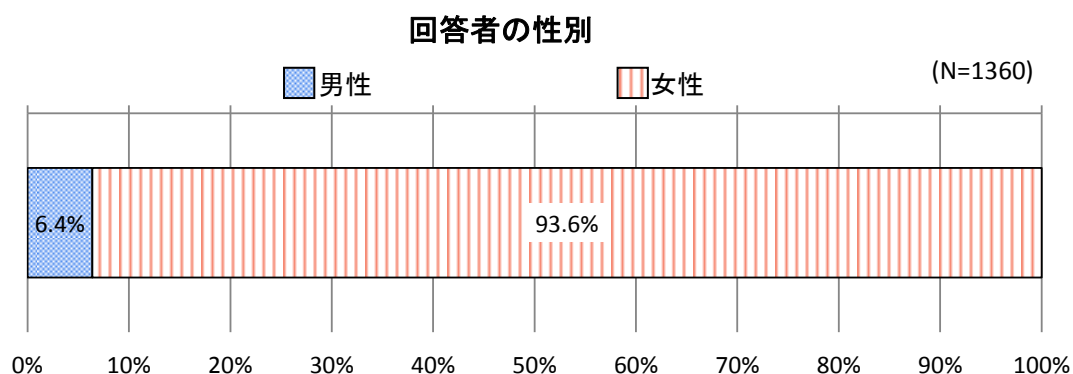
- 1,361部（平成28年2月9日時点）

## 第2章 調査結果

### 1. あなた自身のことについて

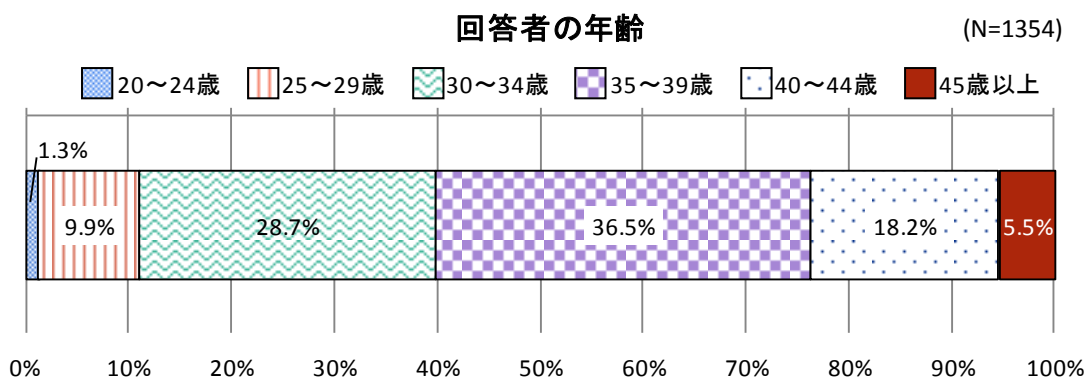
#### 問1 あなたの性別は

- 回答者の性別は「女性」が93.6%で、「男性」が6.4%となりました。



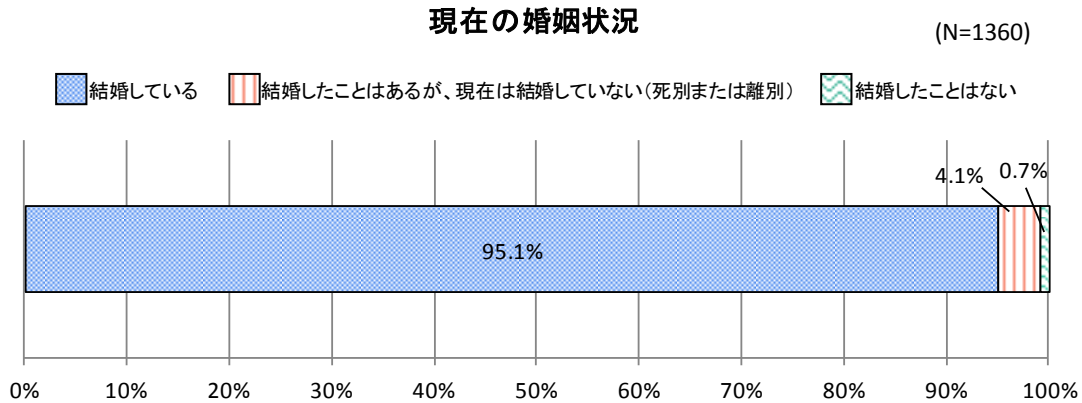
#### 問2 あなたの現在の年齢は（平成27年6月1日現在）

- 回答者の年齢は「30～34歳」が28.7%、「35歳～39歳」が36.5%で30歳代の回答者の割合が65.2%と高くなりました。



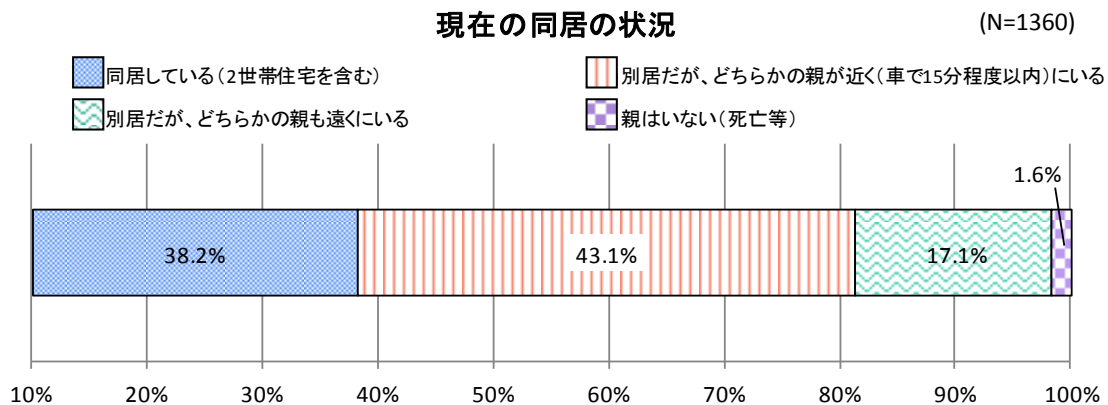
### 問3 あなたは結婚していますか（○は1つだけ）。

- 回答者の婚姻状況については「結婚している」が95.1%となりました。
- また、「現在は結婚していない」が4.1%、「結婚したことはない」が0.7%となっています。



### 問4 今あなたのご自身（または配偶者）の親と同居していますか（○は1つだけ）。

- 回答者の同居状況については「別居だが、どちらかの親が近くにいる」が43.1%で最も高く、ついで「同居している」が38.2%となっています。

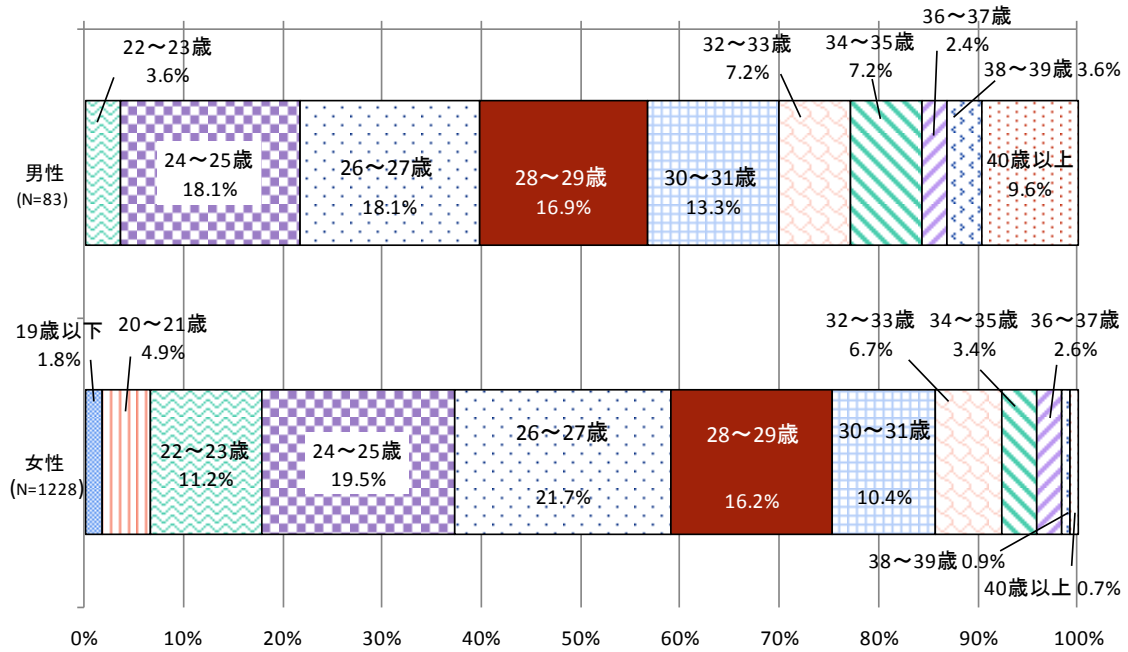


## 2. 結婚やお子さんについて

問5 あなたは、何歳で結婚しましたか（再婚していらっしゃる場合は初婚時の年齢）。

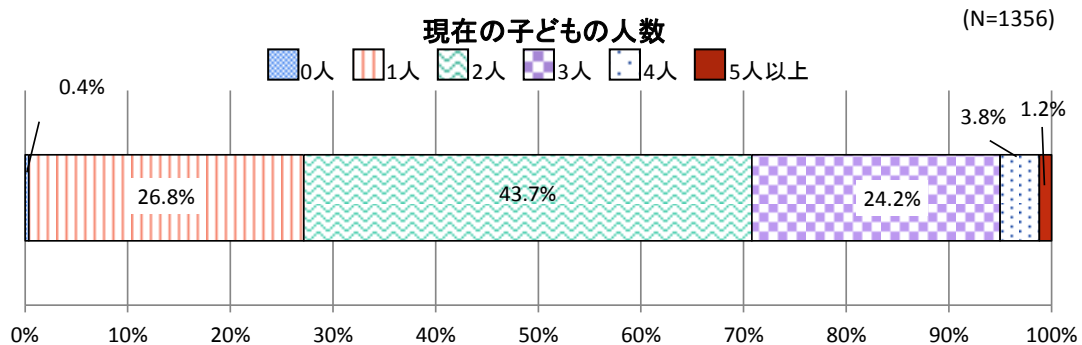
- 男女とも「20歳代」での結婚の割合が高くなっていますが、女性は75.3%が30歳までに結婚しているのに対して、男性は56.7%にとどまっています。

(男女別) 結婚(初婚時)の年齢



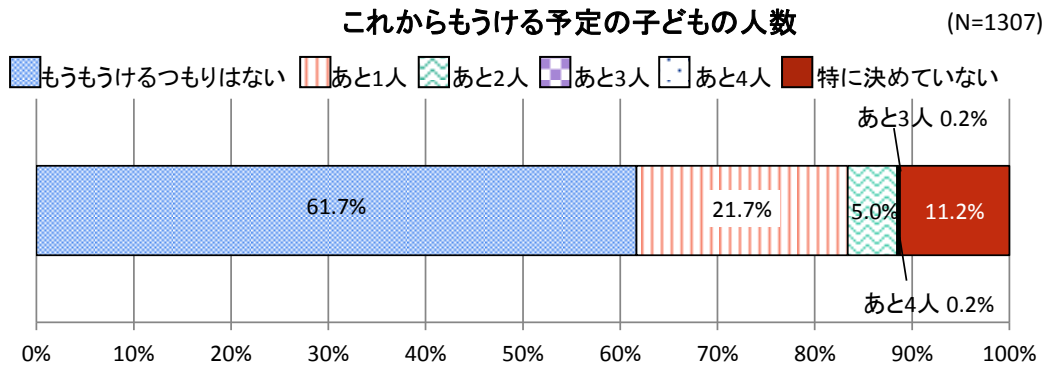
問6 あなたは、現在何人の子どもがいらっしゃいますか（○は1つだけ）。

- 回答者の現在の子どもの人数は「2人」が43.7%で最も高く、「1人」が26.8%、「3人」が24.2%となっています。



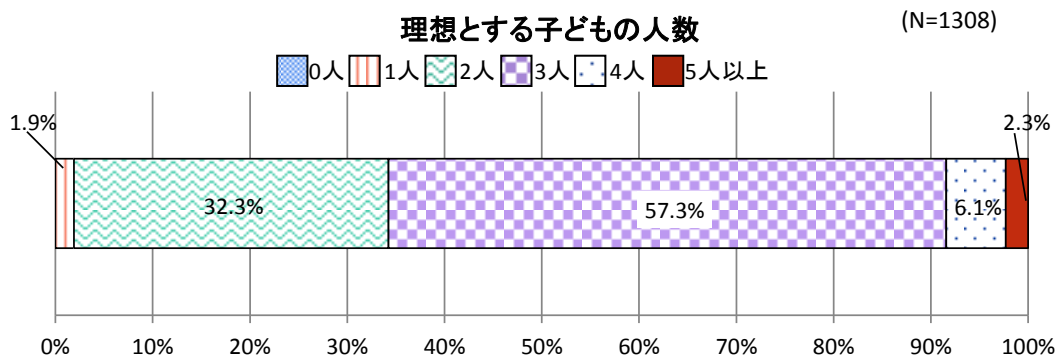
問7 あなたは、これから何人の子どもをもうけるつもりですか(○は1つだけ)。

- 回答者のこれからもうける予定の子どもの人数は「もうもうけるつもりはない」が61.7%で最も高く、ついで「あと1人」が21.7%、「特に決めていない」が11.2%となっています。



問8 あなたにとって、理想とする子ども的人数は全員で何人ですか(○は1つだけ)。

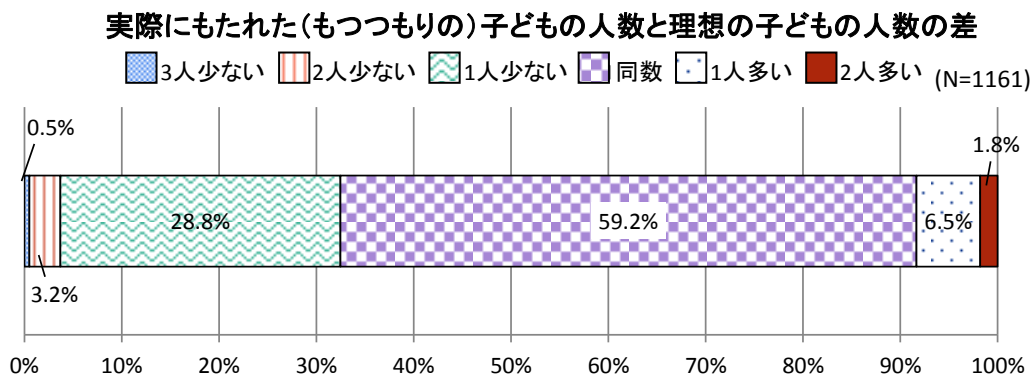
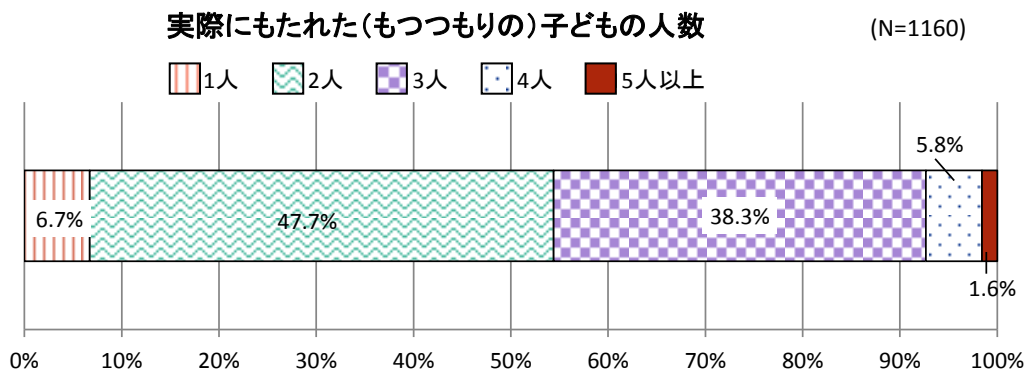
- 回答者の理想とする子ども的人数は「3人」が57.3%で最も高く、ついで「2人」が32.3%、「4人」が6.1%となっています。
- 「0人」とした回答はありませんでした。



## 問 6、7、8 のクロス集計

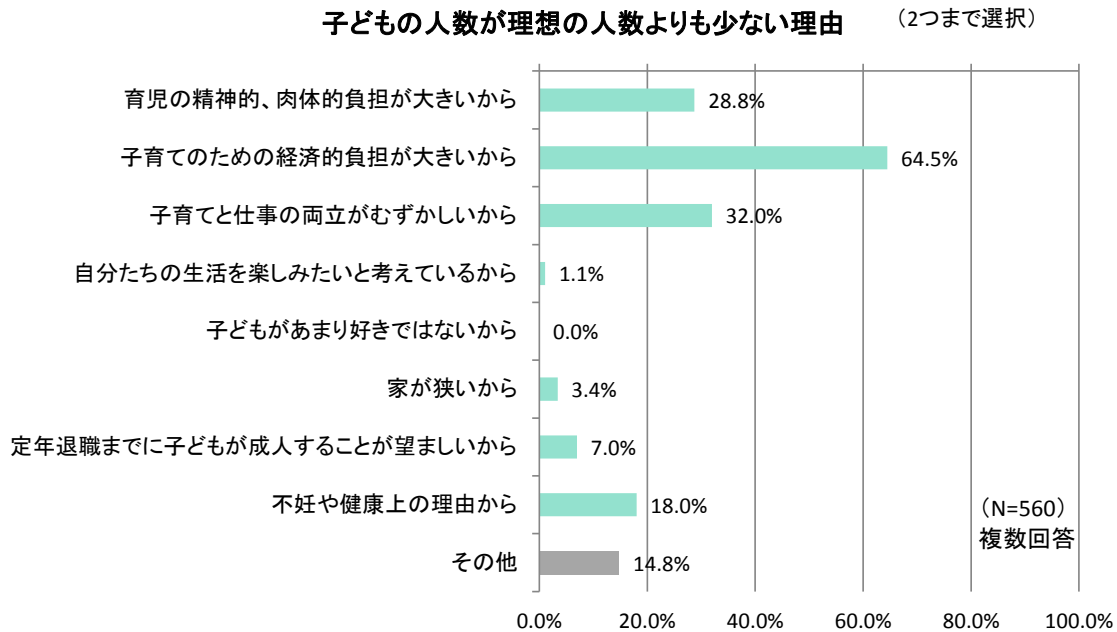
「問 6 現在の子どもの人数+問 7 これからもうける予定の子どもの人数=実際にもたれた（もつつもりの）子どもの人数」と「問 8 理想とする子どもの人数」の差

- 回答者の「実際にもたれた（もつつもりの）子どもの人数」は「2人」が47.7%で最も高く、ついで「3人」が38.3%となっています。
- 「実際にもたれた（もつつもりの）子どもの人数」と理想の子どもの人数の差は、「同数」となった人が59.2%で最も高く、ついで「(理想より)1人少ない」が28.8%となっています。



問9 理想の子ども的人数よりも、実際にもたれた（もつつもりの）子ども的人数が少ない理由（○は2つまで）。

- 子ども的人数が理想の人数よりも少ない理由は「子育てのための経済的負担が大きいから」が64.5%で最も高く、ついで「子育てと仕事の両立がむずかしいから」が32.0%となっています。





### 3. 子育てについて

問 1 0 次の表の該当するところにあなたの子どもの人数をお書きください。

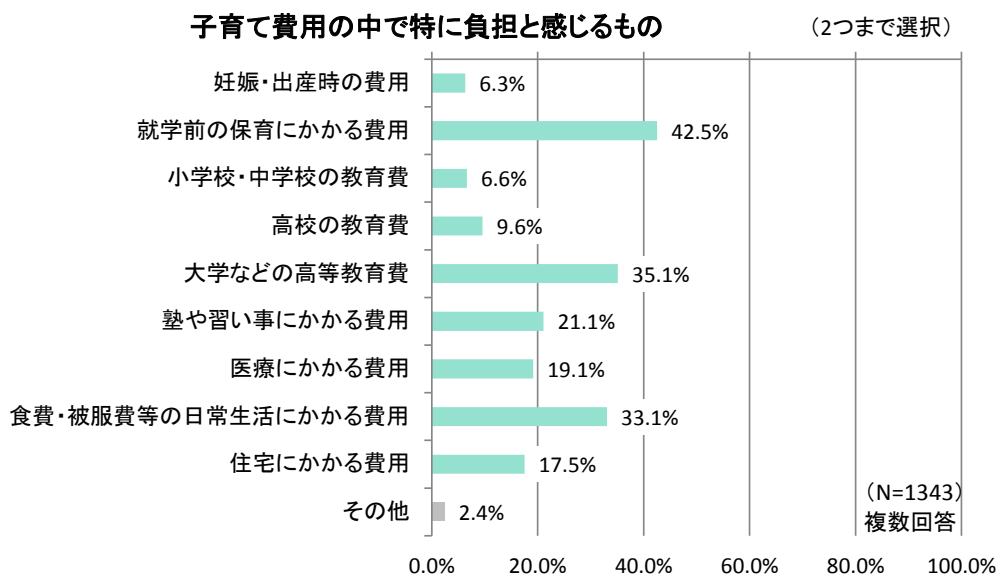
- 回答者全体の子どもの年齢別人数は、就学前が 1,592 人で全体の 67.7%となっています。

子どもの年齢	人 数	割合
0 歳～3 歳未満	693 人	29.5%
3 歳～就学前	899 人	38.2%
小学生	588 人	25.0%
中学生	110 人	4.7%
15 歳～18 歳未満（高校生等）	31 人	1.3%
18 歳以上（大学生等）	30 人	1.3%

問 1 1 子育て費用の中で特に負担とを感じるのは次のうちどれですか（○は 2 つまで）。

ア. 全体

- 子育て費用の中で特に負担とを感じるものは「就学前の保育にかかる費用」が 42.5%で最も高く、ついで「大学などの高等教育費」が 35.1%、「食費・被服費等の日常生活にかかる費用」が 33.1%となっています。

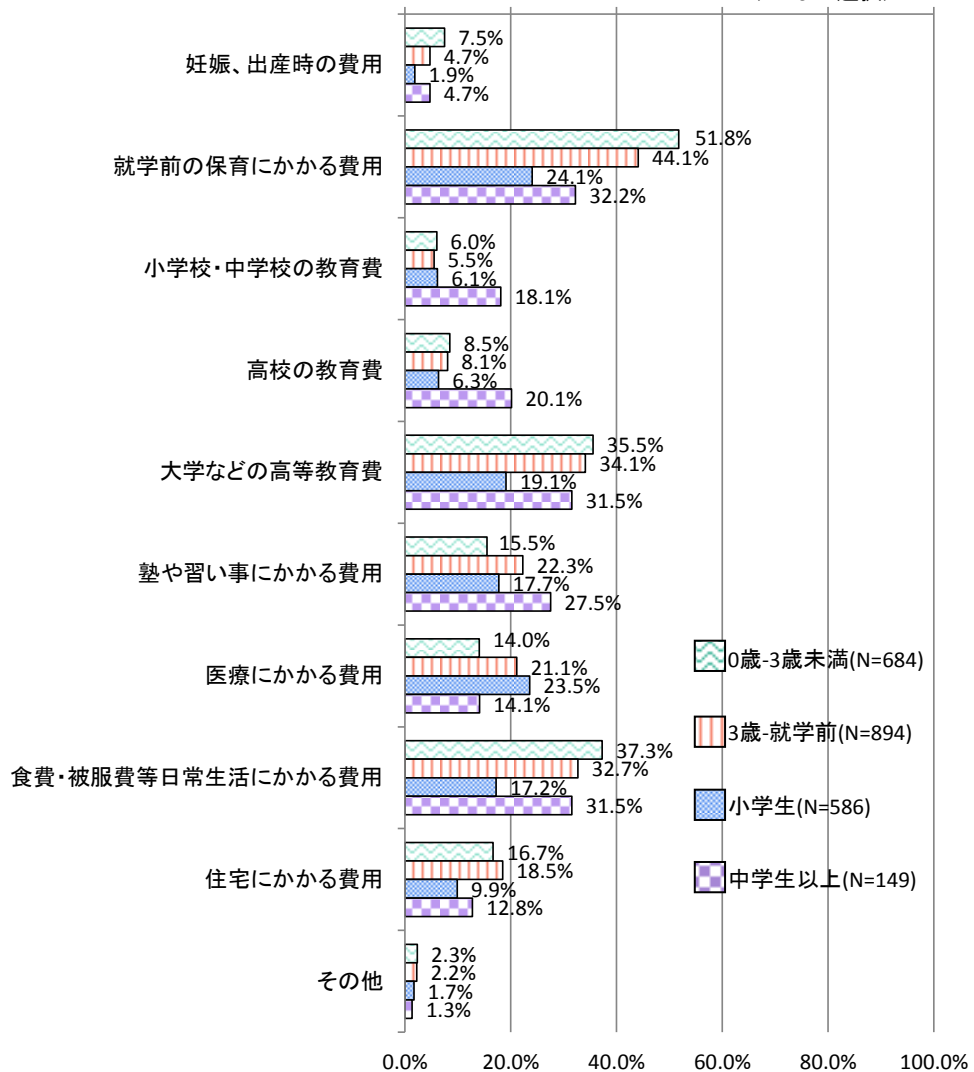


イ. 子どもの年齢別（問10子どもの年齢別人数と問11のクロス集計）

- どの層も「就学前の保育にかかる費用」の回答が最も高くなっています。
- 小学生の子どもがいる層では、「医療にかかる費用」が2番目に高い回答となっています。
- その他の層では「大学などの高等教育」や「食費・被服費等日常生活にかかる費用」が高い項目となっています。

（子どもの年齢別）子育て費用の中で特に負担と感ずるもの

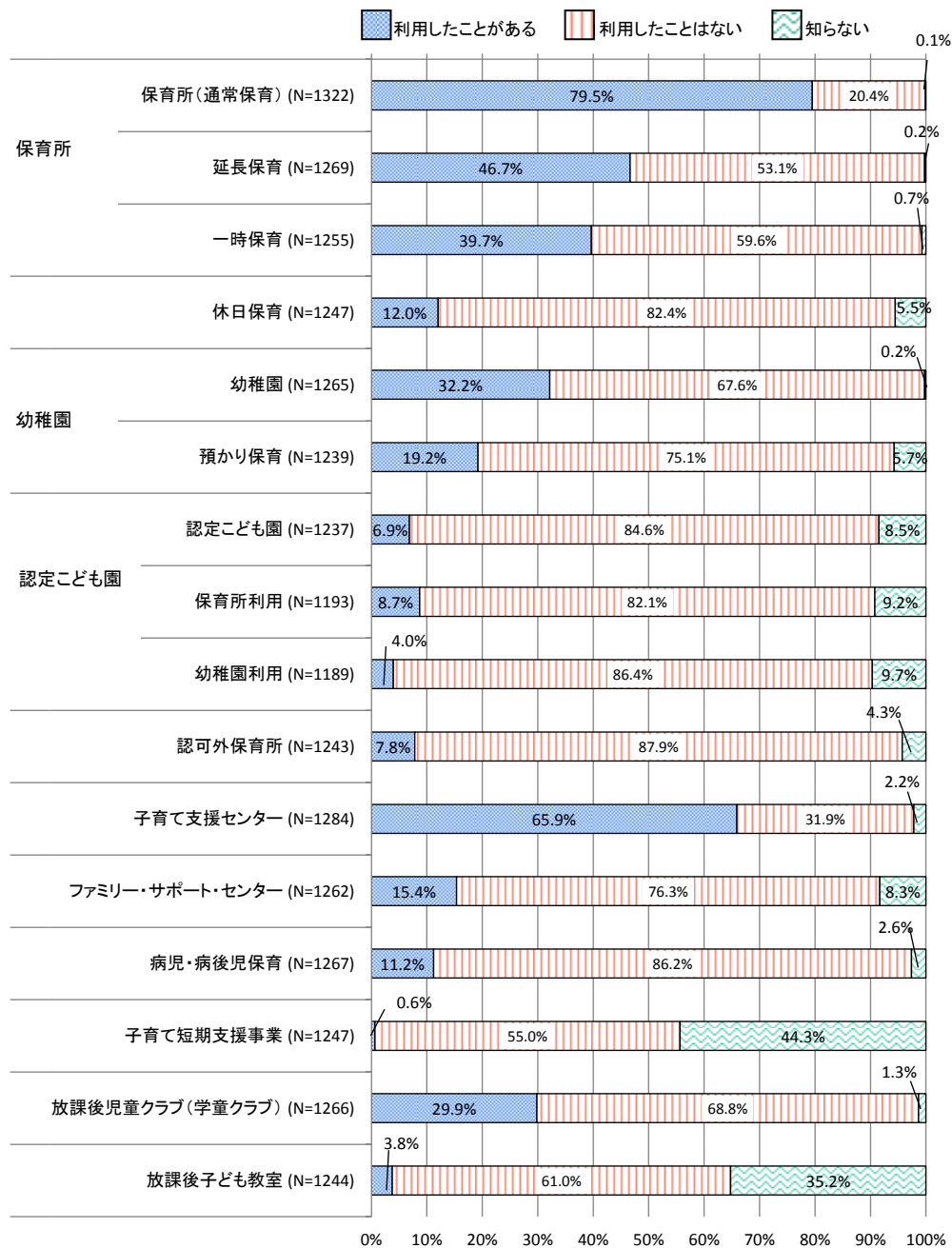
（2つまで選択）



問1 2 子育て支援制度等を知っていますか。また利用したことがありますか。また、今後利用したい制度についてもお答えください。

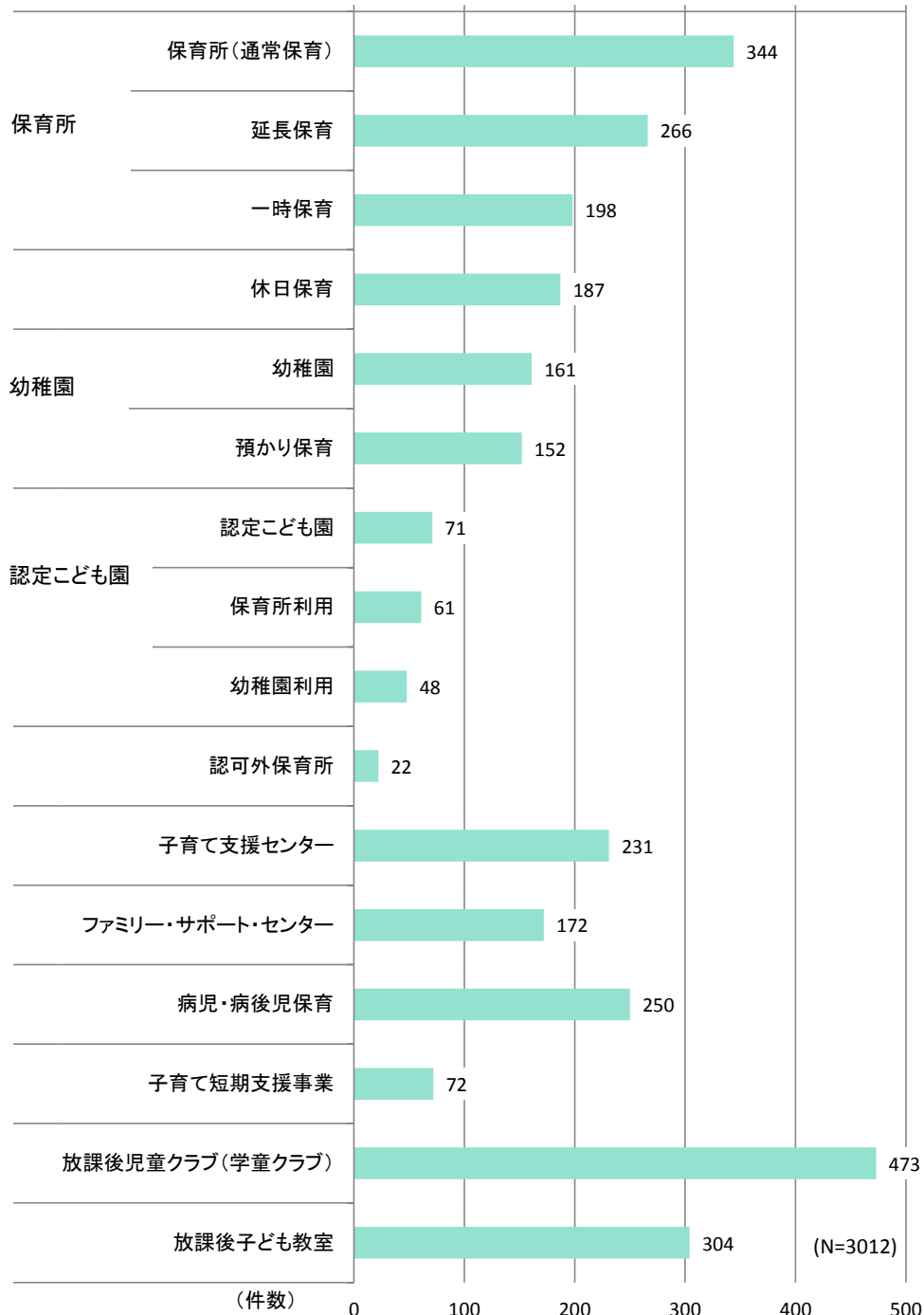
- 回答者が利用したことがある制度は「保育所（通常保育）」が79.5%で最も高く、ついで「子育て支援センター」が65.9%となっています。
- また、知らないとの回答が高いものは「子育て短期支援事業」（44.3%）と「放課後子ども教室」（35.2%）となっています。

子育て支援制度の認知と利用について



- 回答者が今後利用したいとした制度は「放課後児童クラブ（学童クラブ）」が 473 件で最も多く、ついで「保育所（通常保育）」が 344 件、「放課後子ども教室」が 304 件となっています。

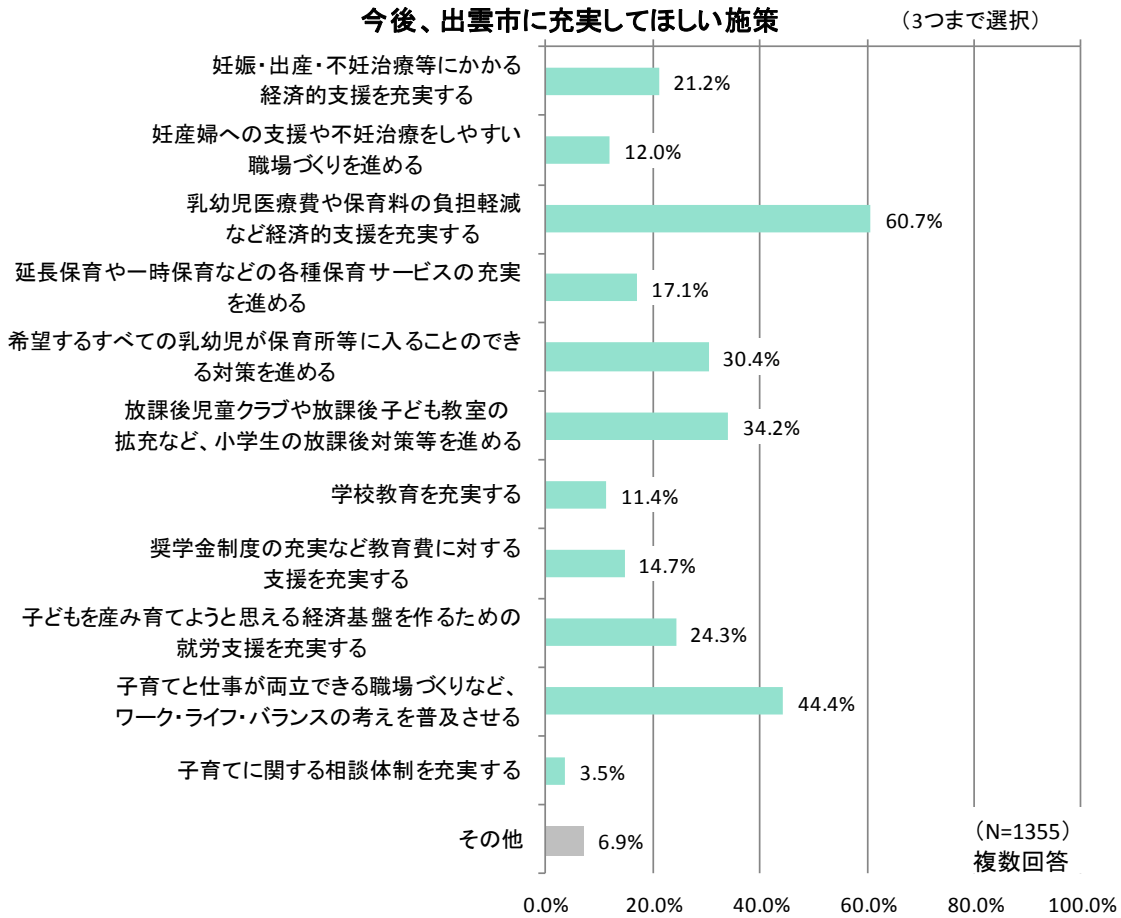
今後利用したい制度



## 4. 子育て支援・少子化対策について

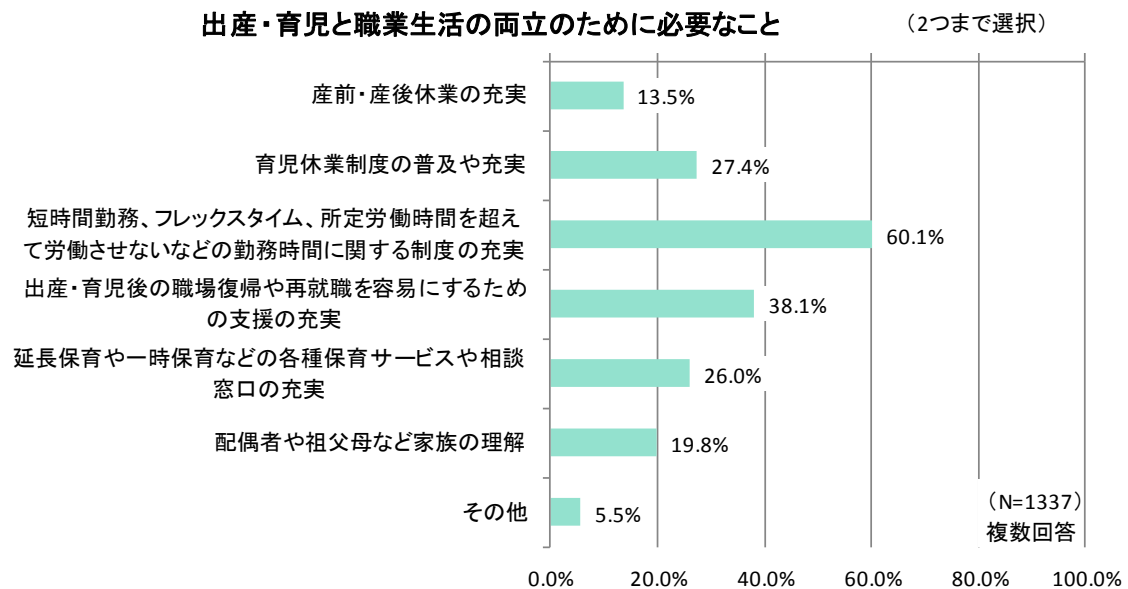
問1 3 子育て支援・少子化対策を進めるうえで、今後、出雲市に充実してほしい施策はどのようなものですか（○は3つまで）。

- 子育て支援・少子化対策を進めるうえで、今後、出雲市に充実してほしい施策については「乳幼児医療費や保育料の負担軽減など経済的支援を充実する」が60.7%で最も高く、ついで「子育てと仕事が両立できる職場づくりなど、ワーク・ライフ・バランスの考えを普及させる」が44.4%となっています。



問 1 4 出産や育児と職業生活を両立しやすくするために、どのようなことが必要  
 と思われますか（○は2つまで）。

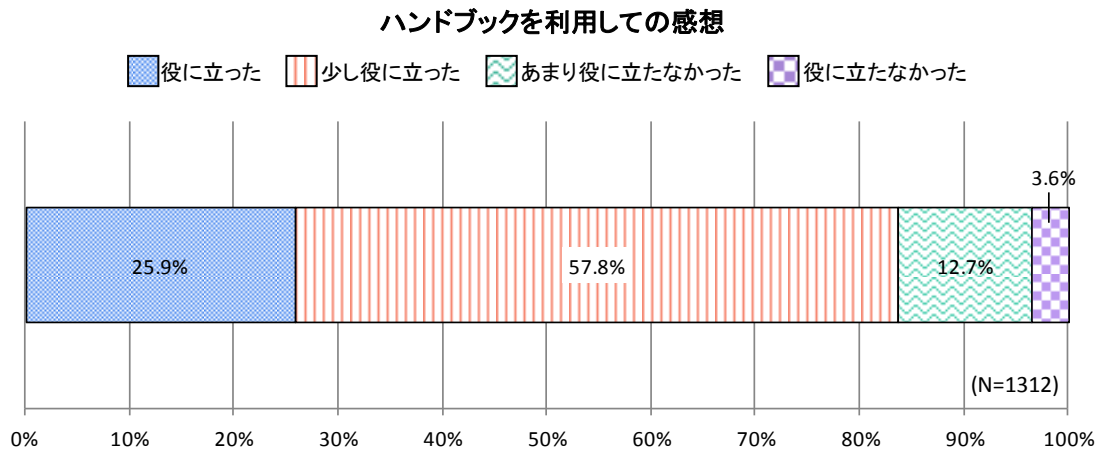
- 出産や育児と職業生活を両立しやすくするために必要なことについては、「短時間勤務、フレックスタイム、所定労働時間を超えて労働させないなどの勤務時間に関する制度の充実」が60.1%で最も高く、ついで「出産・育児後の職場復帰や再就職を容易にするための支援の充実」が38.1%となっています。



## 5. 出雲いきいきこどもハンドブックについて

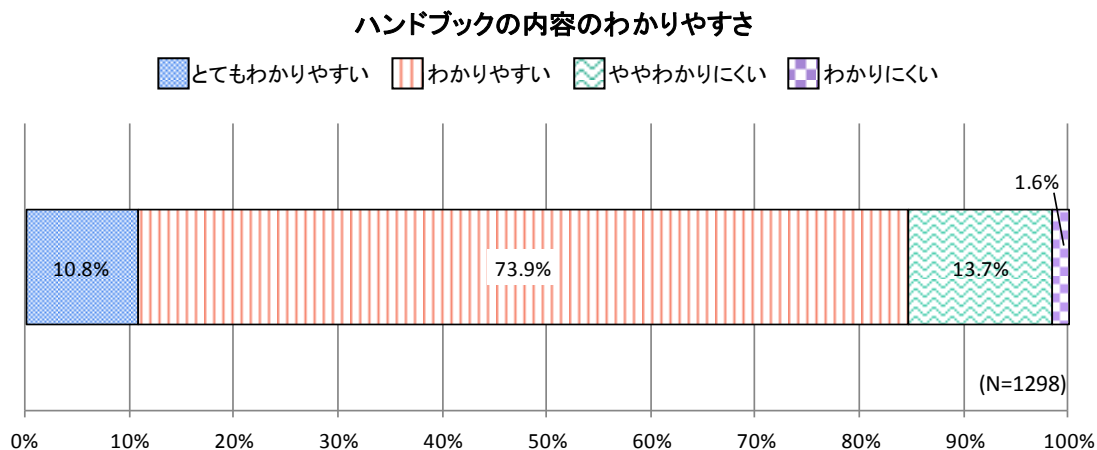
問16 ハンドブックを利用したの感想を教えてください（○は1つだけ）。

- ハンドブックを利用したの感想は「少し役に立った」が57.8%で最も高く、ついで「役に立った」が25.9%となっています。



問17 ハンドブックの内容のわかりやすさはどうですか（○は1つだけ）。

- ハンドブックのわかりやすさは「わかりやすい」が73.9%で最も高く、ついで「ややわかりにくい」が13.7%となっています。



## 6. 自由意見の整理

- 自由意見で寄せられた意見は「第3子以降有料化の撤廃」が最も多く、ついで「小学生以降の医療費負担の軽減・無償化」となりました。

